

○委員長

ただいまから、第5回静岡県社会教育委員会を開催いたします。

今日は会場を提供してくださいました、藁科図書館、藁科生涯学習センター、委員、本当にありがとうございます。この場所で開くことによって、有意義な議論ができればと思っております。よろしくをお願いします。

それでは、本日の次第について確認します。

最初に、事務局から第4回社会教育委員会の概要を報告します。

次に、静岡市立藁科図書館の見学をします。委員に館内を案内していただきながら、藁科図書館の特徴について理解を深めたいと思います。

その後、この集会室に戻りまして、協議に入ります。委員からは事例発表をしていただき、皆様に意見交換をすることを通して、これからの社会教育人材の活用について、より理解を深めていきたいと考えております。

最後に、先日、回答期間が終わった社会教育人材に関する調査の結果について事務局から報告してもらいます。その結果を受けて皆様から、今日は本当に所感というか感想、意見をいただければと思っています。

委員の皆様の御協力のもとに円滑に会を進行いたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、第4回社会教育委員会の開催結果について、事務局から報告をお願いします。

○事務局

お手元の資料1を御覧ください。

第4回社会教育委員会では、第3回社会教育委員会の内容について事務局より報告し、その後、委員から質問を受けました。

協議では、まず、委員から静岡県PTA連絡協議会の取組についての発表を聞き、質疑を通して実践の理解を深めました。

続いて、静岡大学フューチャーセンターの実践について委員の発表を聞き、こちらも質疑を通して、理解を深めました。

最後に、社会教育人材に関する調査について、設問内容や回答方法、回答期間、データの収集方

法等について協議し、決定しました。決定事項を反映しまして、7月10日から調査を開始し、本来は8月21日までだったんですが、少し回答数が思わしくなかったものですから、もう少し各市町にお願いをしています。現在、締切りを9月5日まで延ばして、より良い調査になるように進めております。

○委員長

前回アンケートについては、いろいろ熱心な御議論をいただきまして、ありがとうございました。そのまま事務局で詰めてもらって、今のような調査方法、調査時期となります。

ただいまの報告について御意見等ありましたらお願いします。よろしいですかね。

それでは、藁科図書館の施設見学に移りたいと思います。

では、委員、よろしくお願いします。

(図書館の見学)

○委員長

それでは、ここから協議に移ります。

まずは、今の施設見学を踏まえて、委員による事例発表をしていただいて、そのことにつきまして、意見交換をしていきたいと思います。

それでは、委員、発表をお願いします。

○委員

では、藁科図書館の活動を、特に、ここは生涯学習センターとの複合施設なので、その辺りとの関係も踏まえて報告をさせていただければと思います。

静岡市立の図書館ですが、今、旧静岡市、清水市、由比町、蒲原町が合併して、今の新しい静岡市になっていまして、それに伴い図書館も現在12館あります。旧静岡市だった葵区、駿河区に全部で9館。清水区に3館あります。すべて現在は直営で行っております。

今、かなり全国の自治体どこでも指定管理や、一部業務委託をしている中で、全てを直営でやっているところは少なくなりました。政令市の中でも、直営でできているのが静岡市と岡山市だけ。ほかは、運営は委託、指定管理という形のところが多くなっております。ほかに移動図書館車が1台と電子図書館が始まりまして、その体制で行っております。

これに対して職員体制ですが、現在正規の職員は51名、会計年度任用職員が182名いて、今年は233名の体制で行っております。ただ、この会計年度職員182名のうち、30人ほどは清掃職員や駐車場の職員ですから、このうち、司書、司書補、司書教諭の資格を持っている者が、正規の職員では24名、会計年度の任用職員では129名、全部で153名となっています。

この正規職員の24名も司書採用ではなく、一般行政職の職員がほぼ9割9分占めております。

会計年度の任用職員の方については、司書募集というときに司書、司書補、司書教諭の資格を持っていることを要件にして採用しているもので、会計年度任用職員さんはほぼ資格を持っている方になっています。

次に、藁科図書館のことです。平成元年に開館して、平成5年に大規模改修工事のために休館し、令和6年にリニューアルオープンをして、今の状態になっています。

その際に、かなり本の数も減らしたりして、現在は87,740冊が昨年度末の冊数でした。

改修する前は、この狭いところに10万、11万ぐらい入っていて、かなりきゅうきゅうだったので、改修を機に、古い本は随分抜いた結果の冊数になっています。

次に、静岡市では、こんなものを掲げてサービスを行っております。静岡市立図書館の使命・目的・サービス方針です。

その前に、そもそも皆さん、図書館は何のためにあるかを御存知でいてくださっているでしょうか。あまり御存知ない方は、本当に読書が好きな人が無料で本を借りられる場所でしょうというイメージでいる方も多いですけど、本来、図書館は誰もが知識や情報を得ることができる知的インフラとして存在しているものです。

ただ、物語を読むだけではなくて、皆さんの毎日の生活の中で知りたいことがあったときに、勉強したいことがあったときに、もちろんお金持ちの方なら、すべて本を自分で購入して、学びたいところに出かけて行ってということもできるでしょうが、貧富によって勉強する機会が、知る機会が失われてはならないよということで、私たち図書館が存在しております。図書館は無料の原則で、図書館を使う上ではお金はかかりません。いつでも誰でも、どうぞ来てくださいということなので。全国どこでも、図書館は誰でもどうぞ、入って自由に利用してくださいという施設になっています。

ただし本やCDを借りて帰りたいとなると、市民と通勤・通学している方までとなります。

ちなみに静岡市では、静岡市に在住、住んでいる方以外に、通勤・通学している方、あとは中部地区の4市2町、あと富士市とも協定を結んでいて、そこに住んでいる方は資料を借りることができます。

そんな静岡市の図書館で、私たち職員が利用者の方に、こういう考え方でサービスをしていきま

すをつくったのが、この使命、目的とサービス方針。もともとが合併前の旧静岡市で平成13年につくったものを、合併した後も踏襲して、何回か改訂をした結果、現在あるものがこちらです。主に6つの使命とし、市の一人一人の豊かな生活を実現するための役割を図書館は担いますということで、1知る自由を守る、2市民の暮らしや仕事・まちづくりに役立つ、3学びを通して様々な個性が育つことを助けることを私たちの使命としてサービスを行っています。これに併せて、市内12の図書館がそれぞれ特色を持ってサービスを行っています。

例えば皆さん、静岡市の街中に御幸町図書館があるのを御存知でしょうか。もともとは市役所の中にあった追手町図書館が移転して、今、御幸町図書館になっています。追手町にあった頃からビジネス街、市役所、県庁のそばにあることで、ビジネスマンの利用が多かったのもあって、ビジネス支援を柱に掲げて、今、御幸町図書館では、同じ建物の上に産学交流センターもあるものですから、企業支援、創業支援も併せて、ビジネス支援を行っております。

そのための仕事に役立つような有料のデータベースとか、なかなか個人では購入できない海外の雑誌なども力を入れて、収集をしている図書館です。

それに対して、うちの藁科図書館はどういうところかという、皆さん見て分かるとおり、静岡市内の西北部で、利用する方はほとんどこの地域に在住している方になります。生涯学習センターとの複合施設であり、藁科地域に住む高齢者、就学前児童とその御家族が利用者の中心になっております。そこをメインの利用者として、先ほど見学していただいたとおり、地域の歴史や文化が分かる本や、利用が多い高齢の方やお子さんに向けた資料を中心に集めています。

あと、土曜日の午前中、こども連れに優しいコアタイムを設定しています。小さいお子さんや赤ちゃんを連れている方が気兼ねなく利用していただけるよう、本来はいつでもご利用いただけますが、静かにできないことで敷居が高いと思われる親御さんに向けて、この土曜日午前中は、その図書館にいる皆さんが小さい方の声や、お子さんがちょっと走り回ったりしても大目に見てください、優しい気持ちで見守ってくださいということをアピールして、まずはこの時間からどうぞ来始めてくださいとアピールしています。

館内では蓋つきの飲み物の持込みや自習も自由にできます。とにかく、地域の方に使っていただける図書館を目指していますというところを、リニューアルを機に打ち出しました。

一緒に建物に入っている生涯学習センターの活動を、ここで少し御紹介したいと思います。

その1、地域の慣習や歴史を伝承していく事業を主にやっています。1階のロビーにも飾ってあったのを、皆さん目に留めていただいたでしょうか。「おかんじゃけ」という郷土玩具があるんですが、竹をずっとずっとたたいていくと竹の繊維がだんだん細くなって、人の髪の毛のようになる

んです。これが昔のこどものおもちゃで、お人形さんの代わりとして遊ばれていたそうです。だんだん知らない方も増えてきて、おかんじゃけを作ろうとしても、作り方を知っている人が減ってしまったということで、これをつないでいく事業を行ったり、歴史ウォーキングで、地域の史跡をめぐるウォーキング、ハイキングしながら、この地域の紹介をしたりしていくこともしています。

こういった地域の紹介を新聞にまとめていらっしゃったりして、1階にも置いてありますので、もしよろしければ、ぜひお帰りの際に御覧いただければと思います。

あとは地域の交流の場をつくる事業で、今、スマホサポーター養成講座とスマホサロンも行っています。

今、スマホとかパソコンとかで得られる情報がたくさん増えてきたのに、なかなか使い方が分からない高齢者向けに、こちらの生涯学習センターも、スマホの使い方を説明する講座を昨年度行っています。

そこからさらに発展させて、その講座の受講生の方が、地域の方にボランティアとしてスマホの使い方を教えますということを年に何回か継続してやり始められて、1階のロビーのところでやっています。それに私たちも一緒に、後で紹介させてもらいますが、一緒になってこの事業を行ったりもします。

あとは地縁団体の方との共催事業で、様々な事業をやっています。あとで、私たち図書館と一緒にやっていることの例なども、よければ入れさせていただきます。

生涯学習センターと図書館が一緒にどんなことをしているのか例を幾つか出させていただきます。

まず、せっかくスマホを持っているのに、そして図書館でもサイトを持っているのに使ったことがないよという方がいらしゃったら、すかさず捕まえて、こんなふうにマンツーマンで使い方の講座を行っています。「スマホで図書館活用講座」です。

これを生涯学習センターがやるスマホサロンでも、私たち職員と一緒にそこに参加させていただいて、スマホの使い方の例として、例えば図書館のサイトを見てみませんかとか、やっている最中に、何か知りたいことがあったら、本や雑誌なんかも見てみませんか、図書館の使い方を御案内しますよと共同で行ったりしています。

次に、もう一つの連携例として、図書館と生涯学習センターと一緒にやった昨年度の講座、「絵本に出てくるパンを作ろう」です。講師はセンターを利用なさっているサークルでパンサークルさんがいらしたものですから、その方たちにお願ひしました。

図書館で人気の絵本、「からすのパンやさん」、皆さん御存知でしょうか。本当にロングセラーのこどもたちが大好きな絵本です。この絵本の中で、カラスのパン屋さんが作るいろいろなパン、こ

んなパンを作ったというページが、こどもたち本当にすごく大好きなんです。ここのところでうわって言って、ずっと見ているような子も多いです。じゃあ、ここに登場するパンを実際に作ってみましょうということで、こんなふうに実際にパンを作りました。

パンの発酵や、焼き上がりを待っている間に私たち図書館の職員が読み聞かせでパンを題材にした絵本を読んで、出来上がりを待つみたいな講座をしました。これはとても評判が良かったです。

こんなふうに、ちょうどこどもたちが興味を持っているものと、センターで活動しているサークルがうまくつながった例かなと思います。

次に、同じくセンターと一緒にやっている講座で、「わらしな子どもアートラボ」を毎年やっています。夏休みに開催する体験型の美術教室ですが、この地域にお住いの彫刻家の方がいらっしゃって、生涯学習センターでいつも講師をお願いして、夏休みのこどもたちの工作代わりに講座をやってくださっているんです。毎年、こんなテーマで工作をやるよというのに併せて、私たちがそれに関する本を選んで持って行って、当日本を紹介したり、お勧めの本についての話をしたりということをしています。

これは、ちょうど今年やったもので、今年は椅子がテーマで、椅子が出てくる本を紹介してくださいということで、いろいろ椅子に関する本を読み聞かせしました。図書館の中にあるいろんなタイプの椅子を貸出しして、会場に置いて、こどもたちが作る椅子の参考にしてもらって、出来上がった椅子を持って、こどもたちが図書館に上がってきて、この児童コーナーで、自分が作った椅子に座って、椅子の絵本を読み聞かせしました。こどもたちはいろいろ独創的な椅子を作り、同時に椅子の絵本も楽しんでいただけたなと思います。

ここから先はうちの図書館が行ったイベントを少し御紹介させてください。

まずは、図書館のリニューアルの記念イベントとして開いた「図書館に泊まろう」で、ナイトライブラリーというイベントを行いました。どうぞ皆さん、夜の8時に集合して翌日の朝の7時まで図書館に泊まって、好きなように本を読んだり、そこで眠ったりしてくださっていいですよというイベントを開きました。

これが、リニューアルのオープン記念で、グループで募集したもので、1組5名までで、全部で25人を想定して、5組を募集しましたら、リニューアルオープンで宣伝もいろいろさせてもらった結果、応募が113組来て、大変人気のイベントだったので、これは毎年やるしかないよねということで、今年もやったものです。

今年は「子ども読書の日」の記念イベントで、こどものいる御家庭、グループという限定でやりました。こんなふうに、とにかく寛ぐための物を何でも持って来てもいいですよ。お布団でもクッ

ションでも枕でも、何でも持って来ていいですよと言ったら、大体、どこの御家庭もテントを持ってきて、それぞれ皆さん自分の陣地を使って、ここで自由に本を読み、読みながら寝落ちして下さって。ただ、次の日の朝まで私たち職員は寝ずの番をしたんですが、結構、小さなお子さんも徹夜で本を読んでいたということで、読書マラソンみたいになっているねという感じでしたけれど、大変好評をいただいたイベントです。

また、ちょうど今日の午前中にやっていたんですけれど、大人のための朗読会を開催しています。改修前は生涯学習センターにある和室をお借りして朗読会を開いていたんですが、館内で開くことをこのリニューアルから始めています。

最初は、本を読んでいるのに声がうるさいって苦情も来てしまうかもということで、この日は館内でイベントやりますというお知らせのポスターをお知らせしておいたんですが、始めてみたら、この朗読会の30分から1時間ぐらいの時間、皆さん、そんなに苦情が来ることもなく行えています。

この写真は、対面で聞いてくださっている方ですが、それ以外にもこの本の書架の間の椅子のところとか、向こうのほうで、何となく耳を傾けてくださっている方もいるなということで、図書館という場で本を読む声が響くのも、たまにはこんなことがあってもいいんじゃないかなということでやっています。

図書館の中にいるだけではなく、外にも出かけていっています。例えば、これは市政出前講座という静岡市全体で行っている事業ですが、司書が出向きますというメニューを上げていて、学校や児童クラブ、子育て支援センターなどから依頼を受けています。

支援センターに行って、お子さんのいる親御さん向けにお勧めの絵本をお話ししたり、夏休みの児童クラブに行って、こどもたちに絵本を読んだり、折り紙を教えたりみたいなことが今まで多かったんですが、今年から藁科図書館で始めたのが、S型デイサービスに出前講座をするようになりました。

S型デイサービスは静岡市でやっているもので、家で過ごすことが多くなりがちな高齢者の方に、自宅近くの公民館や自治会館などに大体月に2回ぐらいで集まってもらって、地域の皆さんとおしゃべりをしたり、体操をしたりして、健康を維持してもらおうというものです。

高齢者向けのものなので、落語の絵本を持っていたり、ちょっと笑えるお話だったり、昔話だったりみたいなものを持っていたり。ちょうど一昨日行ったところでは切り紙をやったりして、頭も使って、指も使ってもらって、ちょっと笑っていただいたりしながら、「皆さん、最近、図書館にいらしていますか、足が遠のいてしまった方、ぜひ来てくださいね。」なんて宣伝もしながら、

という活動をしています。

そのほかに、図書館で行っているサービスとしてレファレンスサービスで、利用者の方が何かを調べたいと思ったときに、どうしたら答えにたどり着くか分からないときに、私たち職員がお手伝いをしています。静岡市全体で令和6年度は大体23,000件ぐらいの質問を受けて、それに対してお答えをしてきました。

団体貸出しですが、市内の学校とか家庭文庫さんとか社会教育団体さん等のグループに向けて本を貸出しします。学校との連携で、学校の授業に役立つ本を、私たち職員が選んで貸出ししますという学校協力貸出しです。今度、こんな単元の授業があるんだけど、その単元に役立つ本を貸してほしいよと1枚ファクスを送っていただければ、こんな本はどうでしょうかと集めて、その中から貸出しをしているというものです。

こどもたちの図書館見学や中学生の職場体験、あと大学生の実習生の受入れなども行っています。

あと、これが大きなことですが、市民ボランティアの方々に、私たち図書館の活動は大変支えられています。私たちの活動はボランティアの方々なしでは成り立たないものです。「おはなし会」をするときにはお話の会のボランティアの方々。視覚障害のある方に対して、音訳図書をつくるボランティアの方々。図書館の本の書架整理とか館内の本の修理など、図書館の助けになることをしたいと言ってくれるボランティアの方々とか、そういう大勢の方に支えられて、活動を行っています。

イベントや講座をやるときなども、郷土史の研究だったり、古文書を解説されているサークルの方とか、こどもの本の研究をしている会の皆さんに講師となっていただいて、講座を行ったりしています。

ほかに、静岡市では藁科図書館以外にも、各館様々なサービスを行っています。先ほど、御幸町図書館がビジネス支援を行っていると申し上げましたが、ほかにも南部図書館では福祉サービス力を入れて、読書バリアフリーという観点から、こども向けの大活字本を置いたり、認知症の方に向けて認知症予防の本を置いたりだとか。あと、最近増えてしまっている不登校の方、ひきこもりの方に向けて、外に出る一歩として、図書館でのボランティアをしてみませんかとか、そういうことで図書館の中で活動をしています。

山間地にある図書館は山間地の学校や施設に本を配本に行き、学校の先生の研修センターと複合施設になっている館では、先生の授業支援に向けた資料を集めて貸し出すみたいなことを各館で行っています。

最後に、社会教育人材に関する現状と課題みたいなことを書きましたが、図書館における、今一

番の課題としては人材確保と待遇改善。最初にも申し上げました、直営でやっていますと言っていますが、会計年度任用職員、非正規雇用の方の割合が大変静岡市も大きいです。

図書館は無料の原則があり、利用料を取りません。使ってもらえらうほど費用対効果が高い施設ではあるのですが、それでも自分たちでお金を生み出すことは残念ながらできない。間接的に、例えば図書館を使っていろんな勉強をして、こんな資格に受かりました、こんな会社を興すことができました、経営に役立てることができましたという話を時々いただくことがあっても、直接、お金を稼ぐことができない分、どうしても財政状況が厳しくなると、私たちにかけていただくお金も減ってしまいます。コストカットの結果、人件費が削られてしまうのが、全国、どこの自治体の図書館でも抱えている悩みです。

また、私たち図書館は直営でやっていますが、生涯学習センターは、現在、指定管理者制度を導入しています。市の職員の私が言うのも何ですが、文化にお金をなかなかかけてもらえない現状があるなと感じています。

あと、先ほど私たちの活動に、本当にボランティアの方に支えていただいていると申し上げましたが、そのボランティアの方もだんだん高齢化、固定化が進んでいます。今、若い方は皆さんお忙しいので、50年前くらいに小さいお子さんがいたお母さん方が家庭文庫から始めて、そのうち、図書館のいいパートナーとなってくださった皆さんがだんだん高齢になられて、活動がなかなか大変になってしまったので引退しますという方も増えてきてしまっています。

新しいボランティアの方をどんどん入れていくのが、1つの課題だなと思っています。ただ、ボランティアの方が、ただで働いてくれる方みたいな扱いになってしまうことは絶対に避けたい。そこを分かってもらって、かつボランティアと私たちがこれからも手を取り合って、このサービスを運営していくことが本当に課題だなと感じております。

とても駆け足の発表でしたけれど、これで説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○委員長

委員、すごく充実した発表をありがとうございました。

それで、少し質疑応答をして、次にというシナリオにはなっていますが、今日、遅れられないので、次の協議をやってしまっ、それで人材のこの話ですので、今日の事例を含めた意見交換にしていきたいと思いますが、よろしいですか。

それでは、先に社会教育人材に関する調査結果について、途中経過ですけれど、事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは、お手元の資料3、カラーで印刷しているものを御覧ください。

私からは調査結果、暫定ですけれど、簡単に説明をさせていただきたいと思います。

まず、円グラフから始まっているもの、今、159件が、皆様が御覧になっている結果かと思いますが、その後、少し数が伸びてきまして、現在170強の回答数が得られています。恐らく、もう少し増えてくるのではないかなと考えています。

2番、各市町が、まだ35までそろっておりませんで、現在34です。社会教育委員さんが、140弱回答をしてくださっているところです。

中身に入りまして、設問3番の3-1から3-6、学びの場をつくる人、広げる人、支える人については、結果は見てのとおりです。

4番、人材以外の現状についてどのように捉えているのかですけれど、ここは3番の内容とは異なりまして、設問ごとに随分違いが出てきているところが分かります。

5番、社会教育活動を通して、どのような地域社会の実現を目指したいと考えていますか。3つ選んでいただく設問です。こちらを見ていただくと、特に学校や企業、行政などとの連携が一番多いなど、はっきりと見てとれるところがございます。そのほかのことについては御覧のとおりです。

最後に、自由記述で御回答いただいた内容が、このように全て載っております。

ただ、資料がほとんど結果の生の状態ですけれど、なかなかこれだけでは難しいかなと思いましたので、もう一つの別の結果を御覧ください。

棒グラフが1ページに8つ載っているものがあると思います。それが、先ほどの結果の行政の回答と社会教育委員さんの回答で分けたものです。これを見ていただきますと、行政と社会教育委員では捉えが違うところがありますので、そこが分析のきっかけになればなと思いまして、このような結果の表し方をしてみました。

今、御覧になっていた設問3と設問4については、割合で表してあるのですが、最後におつけしました5番の結果については回答数で表してございます。ここは割合にすると逆に見づらくなってしまうものですから、回答数で表しています。社会教育委員さんのほうが、回答が圧倒的に多いのでこのようになるんですけれど、どこを重視しているかというのは、それぞれの番号の増減を見ていただくと分かりやすいのかなと思います。

最後に、A 3、1枚で表裏にしましたものが、先ほどの自由記述のところ。先ほどの書き方ですと、どのような属性の方が回答されたのかが分かりませんので、こちらの資料であれば、どのような属性の方がどのような回答をしたのかが分かるような資料になっております。

以上が8月26日現在での結果です。

○委員長

それでは、委員の発表とこの調査結果と併せて、まず質問とかあれば。どちらでも構いません。委員の発表についてでもいいですし、調査結果についての質問があればお受けしたいと思いますがいかがでしょうか。

○委員

今回の調査とも関わるのですが、各図書館の中で、行政職員さんと会計年度任用委職員の方との連携やコミュニケーション、あるいは各図書館同士の連携や情報交換はどのような状況でしょうか。

○委員

静岡市についていえば、中央館以外は正規職員が圧倒的に少ないです。藁科図書館は、正規の職員は私ともう一人だけで、それ以外に会計年度任用職員が7名いる状態です。私の仕事は施設管理と苦情対応、もう一人の職員が選書をメインに担うぐらいで、あと本当に、先ほどいろいろ御紹介したものは、会計年度任用職員の司書さんがやってくれている。それは、どこの館も同じような形態になっています。

ただ、12館の中では、館長会議や、それぞれの担当国会議をこまめに行うのと、人事異動で色々な館を回るものですから、比較的連携は取れていると思います。

これが、例えば一部委託、窓口だけ委託に出していて、運営はまだ直営でやっていたりすると、委託と直営の間で、なかなかやり取りが難しいという話は聞きます。

○委員

異なる図書館の、それぞれの会計年度任用職員さんの例えば交流とか意見交換という機会はあるんですか。

○委員

それもあります。同じ担当同士でというところは大きいですが。今は、藁科図書館だけでやっている事業を主に話しましたが、例えば中高生に向けてのサービスで、中学校、高校などに行って、授業の中で子どもたちに本を紹介するみたいなこともあるんですが、それは全館のヤングアダルト担当の職員が集まって、みんなでやったりしていますので。

普段からなかなか会えない分、ネットでのやり取りとか、パソコンの共有のフォルダーの中にお互い議題を書き込んで、それに意見をやり取りするみたいな形でも交流はできているかなと思っています。

○委員

今日の御発表と、事務局にまとめていただいた調査結果にもあるように、何となく行政職員と社会教育委員には求めている理想の違いがあったり、各図書館等でも、立場によってこうあったほうがいいよねというものが、それぞれ少しずつ違ったりするのが、当たり前ではあるんですけど、その違うよねというものを意見交換できる機会があれば、互いの理解が進むように思います。

要は、社会教育人材のつながりを考えるにあたり、私自身は地域の中の社会教育人材をどうしても中心に考えてきたんですけど、行政側にも多様な立場の人がいて、多様な理想を持っている、そこもつながっていくことが重要なのかなと感じました。

今日の御発表では、割と縦にも横にもつながっている印象があったので、ちょっと安心をしたんですが。これがほかの市町にもあるのかなのか、そこが気になったというのが感想です。

○委員

すみません、追加でよろしいですか。

それを申し上げますと、学校図書館に配属されている学校司書については、私たち図書館ではなくて、静岡市は教育センターが管轄しているんですが、そこはなかなか大変だと聞いています。

それぞれの学校に学校司書として、会計年度任用職員が1人だけで、迎える学校でも司書教諭の先生はいらっしゃるけれど、お忙しくて、なかなか図書館の相談ができない。静岡市では、学校で働く方に司書資格を求めてないものですから、全然、図書館をどうやって運営していくかというような知識、資格がない状態の方が、いきなりその1人の場に入って、明日から、この図書館をあなたが運営しなさいと言われても大変で。でも、それを相談する先生は忙しくて、なかなか声をかけられないとか、そういう相談が私たちにも耳に入ってきます。

学校司書を集めて研修をしてくださっているそうですが、なかなかしょっちゅう会えるわけではないので。学校協力貸出しを仲立にして、よく学校司書さんと話をするんですが、いろいろ相談をいただくことがあったりします。

○委員長

そのほか、いかがでしょうか。

それでは意見も含めて、今日、見聞きしたこと、見学に行った部分も含めて、御意見をいただければと思います。

○委員

今日はありがとうございました。

学校と図書館って本当に切っても切れない場所だなと思いながら、ここの蘆科図書館の魅力的な運営にすごく感動しております。

学校の図書館って主に児童書ですけど、もちろん分類で並べてあって、こどもたちが本を見つけやすいようには工夫してます。ここの図書館はそれだけじゃなくて、初めて出会う絵本のところに、お母さんが読む絵本もあったり、小さな字が見にくくなった方のために大活字本もあったりします。そういう工夫された配架をされているのは、きっと運営の中から出たアイデアだと思いますけれど、どうやってこのアイデアが出たのかなというのを、後でお聞かせください。

富士市の場合には、学校図書館司書が各校に配置されておりまして、司書の教育も教育委員会で担っているということで、ちょっと恵まれた地域ですけど。それでも、やっぱり学校教育と図書館、協力貸出しがあったんですけど、生活科で野菜を植えたいよとか、そうなったら、やはり学校の中の本だけでは足りないので、大きな図書館、市の図書館に貸出し要請をかけて、たくさん貸していただくことをやっています。

その中で、この場所が図書館だけではなくて、連携をして生涯学習の機能も果たしている中で、今日の調査の中でも、学びに関わるのはとても大事なんだなと思っております。

3の行政職員と社会教育委員の違いがあるところが、いくつかあったと思いますけれど、これはどうやったら埋められるのかな、どうしてこういう違いが出てきたのか、きっとこれから分析をかけていくと思いますけれど、学びの3－4、学びの場を広げるためのスキルを持った人とコミュニケーションスキルを持った人が十分にいると感じるというのが、行政の方は少ないと捉えてるのかなと思ったときに、図書館は技術があるぞと思いました。

その辺が感想です。ありがとうございました。

○委員長

最初のとこの質問は、委員、答えていただいていたいいですか。

○委員

今回の藁科図書館でいえば、私、今回の改修の前まではずっと中央図書館にいたもので、藁科図書館って、そんなに足を踏み入れたことがなかったんです。藁科の改修担当ですと拝命して足を踏み入れてみたときに、まずは地域を回ってみて、スーパーをのぞいたりして、高齢者の方が多いから和菓子が多いみたいなの、そんなことを見ながら藁科図書館に来ました。

とにかく今の改修前に思ったこと、不便だと思ったこと、こういうことを変えたいと思ったこと、普段から思っていること、とにかく全部聞かせてということで、職員みんなで何度かミーティングをして、その中から出てきたことを形にしたのが、このリニューアルだと自分では思っています。

なかなか会計年度の職員さんからすると話しづらいこともあるかもしれないけれど、悪いことも含めて全部、どんなことでもいいから教えてほしいよと言って。ここに長くいた方が多かったものですから、それでこんなことが気になっていた、こんなふうにしたらもっといいと思っていたというものを、とにかくやれる範囲で実現してみた感じになっています。

1人で思いつくことには限りがありますので、みんなの話を聞く。先ほどの正規と会計年度さんとの分断があってははいけません。同じ運営をしているところに、直営と委託が入っているとなかなかコミュニケーションがうまくいかない。何でも人間だと思う。人が思っていることを忌憚なく話し合える場があるのが、やっぱり全てかなと思っています。

○委員長

全員に意見を聞きたいので、1人二、三分でいくといけるって計算しました。それで機械的に回す感じでいいですか。

○委員

本日は、館内の案内からプレゼンまで大変丁寧にしていただいて、ありがとうございました。

本のある空間がこんなにも落ち着くんだなと、空気感でとてもすばらしいものを感じ、先ほど委員がおっしゃったような工夫が随所に凝らされている、細かいところにとっても気を遣っていらっし

やるんだなと感動いたしております。

あと、事例が大変、本をフックにパン作りなど、とてもアイデアが効いていて、面白いなと思いつつ、やっぱり著作権の問題とか、ちょっと悲しい現実もあって。そういういったところも当然あるので、乗り越えながら新しい企画がまたぞくぞく生まれてくるんだらうなと期待しながら、聞かせていただきました。

調査ですけれど、行政職員と社会教育委員の比較のグラフが分かりやすいと思いました。

最後、社会教育活動を通じて、どのような地域社会の実現を目指したいと考えていますか、これ3つ選べる複数回答可のもので、一目見て、棒グラフの長さが、全然、行政職員と社会教育委員で違うと感じるところで。棒の高さが全体的に高いのが社会教育委員であることで、熱量の違いと簡単に断じてはいけないのかもしれないですけど、豊かな社会教育を考えていく上では、やはり社会教育委員さんたちの思いとか知恵は欠かせないし。行政職員さんが、なぜチェックがこんなにも、つかなかった理由みたいなものが気になりました。

○委員長

事務局から何かありますか。

○事務局

5番の棒グラフの長さが、どうしてこういう違いが出てくるのかについて、補足をさせていただきます。

5番の内容ですけど、3つ答える内容だったものですから、それまでの3と4の内容と違いまして、回答数をそのまま数として出しております。各市町の回答が現在34市町、答えられた社会教育の皆様が140弱おりますので、社会教育委員さんの数が多いということで、棒グラフの長さに差が出ています。

ですが、どの項目に注目しているのか、同じように見ることができると思いますので、それを見ていただきますと幸いかなと思います。

○委員

失礼しました、勘違いになりました。

○委員

藁科図書館を見学させていただきまして、私も以前、図書館に勤務経験があるので、懐かしく感じながら、見させていただきました。

特に、ナイトライブラリーは、本が好きな方には最高のイベントだなと思います。

図書館って真面目そうに見えますが、ナイトライブラリーをやったり、アートチックなことをやったり、パンを作ったり、すごい間口が広い施設だなと改めて感じました。

調査に関して、今期の社会教育委員の答申に調査結果が生かされると良いなと思いました。

○委員

裾野もナイトライブラリーをやっていて、いつも倍率がすごいので、どこも人気なんだなと思って。でも、当たったことがないので、うらやましいなと見ていました。

さっき、委員がおっしゃったようなのもやっていて、「夜な夜なおはなし会」で、夜、ちょっと怖い話をやるのもあって、それも子どもたちに人気だと言っていたので、やっぱり本っていいよなあって思いながら聞いて見させていただきました。

すごく地域の実情に合った図書館だなというのが第一印象でした。スーパーに行って、おまんじゅうがとか、和菓子がといった辺りが、そういったところがすごく大きいのではないかなと。

アンケートの結果を見ても、何となく行政職員と社会教育委員さんのグラフの高さの違を見ると、もうちょっと行政の職員って、もっと地域に、外に出て実態を知ったほうがいいんじゃないかな。さっきの和菓子の件もそうですけれど、多分、社会教育委員さんはそれぞれの地域に散らばっていらっしゃるので、もっと地域の実情や人材を知っていらっしゃる。

行政職員は行政の中にいるので、なかなか出ていくことができないから、細かな人材までは思いつかないところもあるのかもしれないと思いながら、このグラフの違いを今見ていました。

箱物も人も人的社会資本というか、どれも資本なので、そこをうまく活用すれば人も箱もうまく活用して、人口減少しても何とかなっていくのかとか、知恵を出さなきゃいけないと思いながらグラフを見ていました。

○委員

先ほど見学させていただいて、私が面白いなと思ったのが、生涯学習センターといろいろ連携してやっけていらっしゃいますよね。学習センターは民間で運営されていて、図書館は市で、全然違う背景にもかかわらず、やはり同じ場所で活動していることで、しっかりとお話をしながら、地域の

人のために何をしたら喜んでもらえるかを第一に考えて活動すると、こういうものになっていくんだなと見てとれました。ほかの市町も、すごく参考になる事例ではないかなと思いました。

また、講座に関する図書等の展示、細かなことの連携も普段からやられていると思うんですけれど、上手に連携が取れている部分で、非常にいい事例だなと思いました。

こちらの調査の結果ですけど、やはり私がちょっと気になったところ、いろんな部分でちょっとずれがあると思うのですが、4－2の社会教育活動の内容が、行政職員はニーズに合っていると強く感じていらっしゃるのですが、社会教育委員は微妙に感じているみたいなものが出ていて、すごく素直でいいなと思ったんです。

割と行政のほうは、行政としてのニーズに沿った講座を設定しがちです。図書館についても、こういう人を呼ぶと人がいっぱい来るから、これがいいんじゃないかと言って、地域の図書マニア的な人たちが来るみたいな、人気のあるものに走りがちなのかなと思います。意外と一般の方は、その人は誰なのみたいな人も中にはいたりして、その辺りのずれがこのグラフなのかなと思ったりしました。

委員が今言ってくださったように、行政としてこれが必要だよねと思うことと、地域の人がこんなことやってほしいよねという行間を埋めていく作業が、これから必要になってくるのかなと思いましたので、今後の資料を解析しながら、そういうことに向けても話合いが進めていけたらなと思ったところです。

○委員

図書館は仕事でよく使うんですが、カウンターの方たちの対応が、非常に必要最低限だなというのは、今日、この資料で、図書館は利用者の秘密を守る、そういうことだったのかなと納得しました。その上で、ほかの活動を今日説明していただいて、図書館が交流の拠点になっていることもよく分かりました。

職員の方たちの難しさも分かりました。交流事業で顔見知りになった人たちがカウンターに来て気軽に話しかけられたら困ることもあるのではないかとそんな難しさもあるのではないのかと思いながら図書館の活動の広さを今日知ることができました。

○委員

委員、いろいろと図書館の見学をありがとうございました。

委員の説明の中で、図書館は直営でやられていて、生涯学習施設は指定管理の方がやられている

ということで、いろいろとコラボしてやられていることの事例発表がありました。委員から見て、指定管理者と一緒にコラボするのがやりやすいのか、やりづらいのかとか、その辺で御意見がありましたら、お聞かせいただければと思います

というのは、今、結構社会教育施設って指定管理でやられているもののがかなり増えてきています。今後のどんな人材を育てるかという中でも、そういうところが指定管理の方にも協力してもらわないと困るのかなというところがありましたものですから、それで1点お聞きしました。

もう一点は、アンケートの結果ですけれど、先ほど事務局から社会教育委員さんの回答者が140とあったんですけれど、実は政令都市を除きますと、静岡県では、今年度は386人の方が社会教育委員として登録をされています。そうすると、回答者が3分の1強ぐらいだから、かなりまだ少ないのかなと思いました。行政の方は35市町で、1つの市町に1人です。そのところは、かなり回答数があると思います。多分これは、社会教育委員さんの回答は強制ではないですよ。一応、自由にということだと思うんですけれど。半分いってないというのは、ちょっと少ないのかなという気がしました。

あと、この結果を見ますと、「そう思わない」と「そう思う」とかが、半分半分か、ちょっと「そう思わない」という回答のほうが多いのかなという気がしております。質問の中に、「十分に協力ができている」という「十分に」という質問内容があって、私も「十分に」というと十分じゃないのかなと思い、十分ではないので「できていない」ほうの回答になり、その辺で回答の仕方も、「十分」を意識した回答になったのかなという気がいたしました。

○委員

大変貴重な機会をいただきまして、ありがとうございました。

また、ご紹介いただいた様々なイベント、例えば自分で作った椅子を持って本を読むといった企画の中には、今日の御説明にもあったとおり、いかに利用者を読書へ結びつけるかという工夫が凝らされており、大変参考になりました。

その上で、グラフと、最後に委員がおっしゃったことと絡めながらですが。まず、グラフですけれど、どうも自由回答欄を見ると、西伊豆とか御前崎とか、ちょっと人口が減り気味のところは、そもそも人材がいないという悩みがあります。

そうではなくて、人はいるんだけど、やってくれる人がいないというのが、ちょっと違うのかなと思うので。先ほど、十分にいるとかいないとかってあった、十分にいるのが、地域によって随分差が出てくるのかなというところもあるもんですから。分析をする際に、単に数だけじゃなくて、

地域によってどういう回答が出ているのか、そういうところも見ていただいたほうがいいのかなと思いました。

あともう一つ、グラフのほうで、先ほどから5番目のグラフが出ていますけれど、行政職員と社会教育委員は、もともとの母数が違うので簡単には比較できないですけど。明らかに違うのが、1つが地域の情報が分かりやすく伝えられている地域を目指すところは、行政職員がゼロで、社会教育委員は数の違いがあるにしても、全体としては少ないけれども数がいるところです。

行政職員であれば、恐らく自分たちは伝えていることになるんだろうと思うんですけど。この辺りがどういう回答したか、ゼロはなかなか、数が少なくても、そうそう3つか4つ選ぶのではないのかなと思いますので、そこは少し分析してもいいのかなと思いました。

あと、誰でも気軽に集まって話したり、学んだりできる場所が、社会教育委員の方は山の大きさでいくと、ほかの山に比べるとかなり高くなっているような気がするんですけど。行政職員の方は、数の問題があるにしても、かなり少ないわけです。そうすると、どこかに行政職員の方は、あまり誰でも来てもらっても困るぞというところはあるのかなんて思ったりもしました。

この辺りが、どういうことなのか。先ほど御報告いただいた委員から、図書館は誰でも知識や情報を得られる知的インフラの場であるということがあって。むしろ、いろんな場ってそうあるべきだろうと思うんですけど、ちょっと意識の差も気になったところではあるわけです。

最後に、問題は、ボランティアにしてもそれを統率する人がいるわけであって、統率する人がボランティアになると相当な負担ですから、なかなか長続きしないです。

ですから、ボランティアでやるのは結構ですけど、ボランティアを集めるときに、ただ集めればいいというものではなくて、それをどういう形で何をしてもらうか、企画手配する人が必ず必要なんです。だから、そういう方がきちっといないといけないと思います。そういう方が固定化するのではなくて、ある程度回っていかないといけないところもあると思うんです。

そういう意味では、いろんなところでボランティアってあると思うんですけど、その辺りがどうなっているかというのが、ちょっと気になるころではあります。

ただ、これは統計調査から出てこないところですので、また別の形として考えていく必要があるのかなと思いました。

○委員

まずは図書館の説明と見学、ありがとうございました。本当に居心地がいい図書館で、また来たいくなるというのが率直な感想です。藁科図書館は誰のための、どんなニーズに応える図書館にする

かをすごく考えられて、手立てをされていることを今日学んだので、学校の図書館の在り方を考える参考にさせていただきます。

アンケートですが、5番目の回答で、行政は発信していると思っているけど、社会教育委員さんはそうは思っていないのではないかと想像します。学校も同じようなことがあり、学校としてはいろんなことをお伝えしているつもりでも、保護者はもっといろいろ知りたいと思っていらっしゃる。ホームページとかお便りに加えて、6月の文化祭でInstagramを試行したところ、地域の方も「インスタで見たから来てみたよ」と文化祭に来てくれて、保護者にも好評でしたので、2学期から始めることにしました。

行政の発信も、基本的には紙やチラシが多いということで、それも本当に必要なことではあるのですが、SNSの発信も考えていくと、可能性が広がると思いました。

もう一点、同じ5番のグラフで、行政の方は、地域のイベントや活動を住民が支え考えて動かしてほしいと考えていると読み取れます。例えば高校生にも、そういったイベントのお手伝いとか、あるいは一緒に参加することを勧めるために生徒へ発信をしていますが、そういう情報を全てキャッチしきれませんし、こどもたち自身も意外と知らないという現状があります。高校生も地域の力になる人材なので、裾野を広げるという意味でもどんどん出て行って活躍させたいと思っています。

○委員長

まだ、御意見があるかと思いますが、私から一言。

私、こどもの頃に住んでいた地域は、中央公民館の4階が図書館で、この施設みたいでした。公民館の下でいろいろな展示物を見た後に、ちょろちょろと上がって行って、本を見て帰るのがすごく楽しくて。だから、その懐かしさがちょっとよみがえってきました。

いろんなものが分かれるのではなくて、一緒になる。調査でも的確におっしゃっていただきましたけれど、最後に、委員の話し合うのが一番大切、いろんな人の意見を集約というか、全部取り入れていくのが大切という話があって。そういう点からすると、一緒に、とにかく自分でやったつもりでなくて、相手がそれで満足しているか、きっちり確認しておくことって大事なんだと、今日、皆さんの御意見を聞いて感じました。

調査の結果はまだ途中ですので、今日、いただいた意見を基に、9月にワーキンググループを行います。そこで分析の方法を決定し、そして10月の第6回で調査結果についてはしっかりと出していきたいと考えています。事務局に協力をたくさんいただきますが、よろしくお願いいたします。

今日、皆さんに見学でいろんないい点を見つけてもらえることができ、私たちもとても勉強に

なりました。

それでは時間になっているので、これで本日の協議は終了としたいと思います。

事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局

それでは連絡いたします。

本委員会の会議録ですが、また3週間後を目安にメールにて、皆様にお送りしますので、御自身の御発言の部分を御確認ください。

次回の第6回委員会は10月23日（木）の開催です。会場は県庁、9階特別第1会議室です。

第2回のワーキンググループでの協議を踏まえまして、調査の分析資料をまた事前に皆さんにメールでお知らせしますので、見ておいてくださると嬉しいです。

次回は教育長も出席する予定になっております。

その他ご不明な点がございましたら事務局までお願いいたします。

○委員長

それでは、以上をもちまして第5回静岡県社会教育委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。